

八田與一記念祭をめぐって

武長玄次郎(人文学系)

山下将央(台湾・徳明財經科技大学管理学院国際貿易系)

About Hatta Yoichi's Memorial Service

TAKENAGA Genjiro(Division of Liberal Arts)

YAMASHITA Masahiro (TMUST, College of Management, Department of International Trade)

Abstract: Memorial service of Hatta Yoichi is held every year in Usanto dam on May 8 of the anniversary of a death of Hatta since 1943. The sponsor is Chianan Irrigation Association. This organization is in charge of the dam and the supply of water facilities in the local area. In this year it was held a lot of attendants including Mayor of Tainan and Mayor of Kanazawa, grandson of Yoichi, Mr. Hatta Shunichi and Hatta family. This indicates Taiwanese great gratitude to him. People feeling to him in Taiwan is consistent after the World War II. After the War, Japan was being blamed severely in Taiwan. It was difficult to praise a Japanese in an official occasion. Nevertheless Hatta Yoichi was an exception. Usanto dam concerned expressed respect about him to Japanese who visited this place from 1950's. Now Taiwanese likes him across a political party.

Keywords: Memorial service, Tainan, Hatta family, After World War II, Respect to Hatta

1. 八田與一記念祭

2019年(令和元年)5月8日、武長と山下は上村繁樹環境都市工学科教授と共に、八田與一記念祭に出席した。記念祭は、烏山頭ダムにある八田夫妻の墓で行われ、嘉南大圳組合の後継組織として地域の水系を管理し嘉南農田水利会が主催し多数の職員が運営に携わっている。八田與一は1942年(昭和17年)5月8日、フィリピンにおける綿作調査を命じられて当地に向かう途中、乗船の大洋丸がアメリカの潜水艦に撃沈されて殉職した^{注1)}。その翌年以降、毎年命日に関係者が出席して八田與一、および妻外代樹(1945年9月1日、烏山頭ダムに身を投げて死去)を追悼する行事が行われている。

2018年8月に調査のため嘉南農田水利会と烏山

頭ダムを訪問した際、出席を希望し受け入れていただいた。我々3人は5月8日の10時頃烏山頭ダムに到着し、しばらくダム敷地内を見学した後で12時から、これも嘉南農田水利会の主催による昼食会が開かれた。内容豪華な昼食に一切費用はかからない。台湾におけるおもてなしは、非常に素晴らしいものがある。ここで我々は八田與一・外代樹の孫八田修一氏をはじめ出席者の方と挨拶することが出来た(武長は修一氏の講演に何度か参加したことがある)。

式典は14時から始まった。八田與一の銅像と八田夫妻の墓を中心にして行われる。八田家親族および主要な出席者は銅像と墓近くに席を設けており、一般参列者というべきか、それ以外の出席者はその周りに席があった。日本人と台湾人席は分けら

れていたが、特に厳密なものではなかった。2人の尼僧の読経の後、黄偉哲台南市長、山野之義金沢市長、楊明風嘉南農田水利会長、八田修一氏らが相次いで八田與一の功績を称え、日本と台湾の友好を表明するスピーチをおこなった。中国語には日本語の、日本語には中国語の通訳がされた。通訳をつとめたのは、「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」世話人代表の徳光重人氏であった。八田與一および外代樹の出身地石川県金沢市は、市長がこの式典に出席しているように八田顕彰が盛んであり、小中学校の教材としても八田を積極的に取り上げている。「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」は名前の通り、夫婦の顕彰と台湾との交流活動を盛んに行っており金沢を中心にしている。1989年に「八田技師を偲び嘉南の人々と友好を深める会」として発足し、2002年に改称された。この記念祭では、この会以外からも金沢から相当の出席者がいた。

スピーチの後で我々を含めた出席者たちは與一の銅像に花を捧げた。献花は団体ごとに行われ、日本語と中国語で団体名がアナウンスされた。武長、山下、上村教授は徳光氏から「木更津高専」という団体名で呼んでいた。

図1にあるように、銅像には多くの花が飾られている。周知のように、2017年（平成29年）4月に八田與一像は心無い者によって破壊されたがすぐに再建され、破壊前を知る者が見ても言われないと再建だと気付かないくらい元に戻っている。名簿は配布されなかったが、出席者は合計で300名は下らないと思われる。

頼清徳前台湾首相（行政院長）は、2010年から2017年まで台南市長を務め、市長在任中にはこの記念祭に毎年必ず出席していたという。今回は日本訪問の時間的都合で出席しなかったが、午前中に烏山頭ダムを訪れ銅像に花を捧げたと、出席者に対するアナウンスがあった。

バナナ、西瓜などの果物がこの場に用意されており、出席者にふるまわれた。このあたりも、台湾の人々の温かい心遣いが伺える。式典はこれで終了し、我々は滞在していた台南のホテルに戻った。嘉南農

田水利会の方々に挨拶をした際、来年2020年は嘉南大圳着工100年にあたり、これを記念して式典は規模を大きくし、5月8日の1日から期間を1週間に延長して実施する予定であることを聞いた。その費用や手間は厩大になるであろうが、関係者にはそれを遂行する強い意思があると感じられた。



図1 2019年5月8日 八田與一像

2. 八田與一の認識と銅像をめぐる

この式典からも分かるように、南部を中心として、台湾における八田への尊敬は非常に深いものがある。近年では台湾の教科書に八田の業績について記載されていることから、台湾において若い世代を中心に知名度は非常に高い。

だが、八田を評価することが出来るようになったのは台湾が民主化された80年代以降のこととよく

言われるが、必ずしも事実ではない。戦後長く中国国民党政権の独裁が続く中で、日中戦争の交戦国であり国民党が中国本土の支配を失う大きな原因を作った日本に対する反感は、確かに大きなものがあった。日本語は出来る限り排除され、教育現場では日中戦争の行為などについて日本への批判が強くなされていた。一方で、蒋介石は「恨みに報いるに徳を以てする」と寛大な態度で日本に接したとされ、冷戦の下で反共という共通点を持つ国民党と日本の自民政権の関係は 1972 年（昭和 47 年）の国交断絶まで概ね良好であった。こうした複雑な両国の関係は、八田與一評価にも微妙に影響したと思われる。嘉南農田水利会の関係者は、毎年記念祭を続けたことから分かるように、戦後一貫して八田を評価し続け、それが国民党政権から掣肘や規制を受けた様子は伺えない（見えないところではあったかもしれない）。少なくとも台湾南部では八田與一への尊敬や評価はなされており、それは当時台湾と関わりがあった人々が残した日本語文献からも十分うかがい知ることが出来る。武長は以前これについて調査発表したことがあるが^{注 2)}、世の中に広く知られているとは言えず、その後知った文献もあることから今回改めて紹介することにする。

日本林業協会会長だった松川恭佐は、1952 年（昭和 27 年）9 月に台湾を訪れている。そこで烏山頭ダム（台湾省嘉南大圳水利委員会烏山頭出張所とある）の関係者について話している。「故八田技師の肖像を掲げた一室で、同技師の功績を拝聴し、一同会食しながら昔を語り」とある。台南山林管理所の翁芸純造林課長は「このような大規模の水利事業は、世界第二であって、全く八田さんのおかげです」と語っている^{注 3)}。

1959 年（昭和 34 年）発行の文藝春秋で、作家の邱永漢は「台湾の恩人・八田技師」において、八田と彼の水利事業を「このダムによって恩恵を被っている人々は、政治の厳しい現実を乗り越えて、いまだに在りし日の彼の功績に感謝の意を表すことを決して忘れないのである」と高く評価している。当時の台湾独立派らしく、日本による台湾統治に対

し概ね厳しく評価する言葉もある一方で、「この人を知ってほしい」「その青春を嘉南大圳の完成に捧げて今日なお台湾の農民から慕われている一日本人技術者」とある。作者の知名度からか、この文は非常に有名になった。確かに、八田與一の息子晃夫、八田の部下阿部貞壽（八田の後で烏山頭出張所長をつとめた）など八田を良く知る人々から話を聞いていて情報は正確であり、非常に貴重な文献である。晃夫は、邱に対し「父は一口にいえばまあ一国者です」と述べており、かなり信頼を得ていたことが伺える。その他、工事に携わった複数の人からも取材した模様である^{注 4)}。八田に関する基本文献とされるのは当然と言えよう。ただし、同じ時期の邱以外の八田與一関連文献が省みられないのは大きな問題であり、改められるべきである。

また、戦後八田與一像が今日のように敷地内の野外の一角に設置されたのは 1981 年であり、それ以前は政府の規制によって倉庫内に隠されていたと言われることがよくある。だが事実ではない。邱文献中に写真があり、ここではほぼ現在の位置に八田像が、ただし台座なく（台座の製作は 1970 年代）置かれている^{注 5)}。この事実は、国民党による破壊の危険性は八田像に関する限りほとんどなかったことを意味する。理由は不明だが、八田はある種特別扱いされていた可能性がある。

1965 年（昭和 40 年）、NHK の取材班が台湾取材の一環として烏山頭ダムを訪れている。同年書籍にもなっている。ここで台湾のパンフレットには、「八田さんら日本人の活躍については全く触れていない」という、当時の台湾の政治的立場からくる難しさに触れつつも、「このダムは、八田さんが工事している頃から知っています。おかげでこの辺は見違えるようになりました。百姓の収入もふえたから、レンガづくりの家が多くなった」と八田を賞賛する農民の声を紹介している。また、ダム工事で働き、八田さん夫婦をよく知っている農夫の「奥さんのハキモノは、あそこにそろえてありました」と「水門の横を指して眼をしばいた」という声も紹介している^{注 6)}。現地農民の思いを伝えようとする NHK を



図2 赤子を抱いた八田外代樹像

4. 終わりに

前総統の馬英九は国民党員で日本に厳しい姿勢を示すことが多いが八田には好意的であり、烏山頭ダム内にある八田與一の旧家を含む公園を整備は、馬総統の時代に行われたものである。八田與一像の破壊は残念な出来事であったが、犯人は元台北市議で、台湾ではごく一部の支持しか得られない中華人民共和国と台湾の統一を主張する中華統一党の構成員であった。国民党とも無関係であり、世論にほとんど影響力を持たない少数派の愚行に過ぎない。台湾の多くの人々は事件を深く悲しみ、憤った^{注16)}。

一部例外を除き、台湾の人々は党派や年齢等に関係なく八田を尊敬している。2013年に再建された旧八田邸内に銅像が設置されたように、八田外代樹人気も強いものがある(図2)。烏山頭ダムにはこれまで以上に多くの人々が訪れ、八田與一記念祭は、年々益々盛んになっていくことであろう。

注

- 1) 古川勝三：台湾を愛した日本人 土木技師八田與一の生涯 改訂版，創風社出版，pp. 278-300, 2009
- 2) 武長玄次郎：「八田與一ほどの程度知られていたか(後編)」，技術史教育学会誌，Vol. 17, No. 1/2, pp. 30-35, 2017
- 3) 松川恭佐：「台湾行(4)」，林業技術，Vol. 133, pp.24-25, 1953
- 4) 邱永漢：「台湾の恩人 八田技師」，文藝春秋，Vol. 37, No. 4, pp. 252-260, 1959
- 5) 邱永漢：同上，p. 253.
- 6) NHK 特別報道班：南の隣国 台湾・フィリピン，日本放送出版協会，pp. 66-70, 1965
- 7) 速水修次：「訪台日誌」，ダム日本，No. 267, p. 41, 1967; 広田久重：「日本技術陣に期待」，同上，p. 48.
- 8) 高橋嘉一郎：「八田與一氏・人と業績 珊瑚潭の建設」，ダム日本，No. 269, pp. 34-35, 1967
- 9) 清水美里：帝国日本の「開発」と植民地台湾 台湾の嘉南大圳と日月潭発電所，pp. 250-251, 有志舎，2015
- 10) 鈴木明：続・誰も書かなかった台湾 天皇が見た‘旧帝国’はいま，サンケイドラマブックス，pp. 120, 1977
- 11) 鈴木明：前掲書，p. 119; 清水美里：前掲書 pp. 243-244.
- 12) 松村源太郎：台湾 昔と今，時事通信社，pp. 58-59, 1981
- 13) 古川勝三：前掲書，pp. 10-11.
- 14) 高橋裕：古川勝三前掲書，序文
- 15) 司馬遼太郎：街道をゆく 40 台湾紀行，朝日新聞社，1994
- 16) 李久樞：「台湾・八田與一技師墓前祭に参列して」，祖国と青年，468, pp. 50-53, 2017